

ソフトバンクと RPA ホールディングスによる業務提携のお知らせ

ソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：宮内 謙、以下「ソフトバンク」）と RPA ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：高橋 知道、以下「RPA ホールディングス」）は、7月21日に、RPA 分野の事業展開に係わる業務提携契約を締結しましたので、お知らせします。

RPA とは、「Robotic Process Automation」の略で「ソフトウェアロボットによる業務自動化」の取り組みを指します。ソフトウェアロボットが、バックオフィスにおけるホワイトカラー業務などを代行するもので、RPA ツールに業務の処理手順を登録するだけで、24 時間 365 日稼働し、単純な事務作業や膨大な書類業務などを自動的に処理できます。また、通常のアプリケーションと違い、日ごとに変わる業務でもルールを書き換えることで柔軟に対応し、間違いを繰り返さず、品質を維持して大量の業務を処理できるため、企業の業務効率化と生産性向上を実現します。現在、導入企業が急増し、今後の市場拡大が期待されています。

RPA ホールディングスは、4,000 体以上のソフトウェアロボットの導入実績を持つ RPA のリーディングカンパニーである RPA テクノロジーズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：大角 暢之、以下「RPA テクノロジーズ」）などを傘下に持つ企業です。RPA テクノロジーズは、「BizRobo!（ビズロボ）」をはじめ、「Blue Prism（ブループリズム）」「NICE（ナイス）」を中心にその他国内外の主要な RPA ツールの取扱いやエンジニアリング実績を持ち、エンドユーザーの状況に対して客観的かつ最適な RPA 推進を実現しうる、日本の RPA 市場をけん引する存在です。一方ソフトバンクは、「情報革命で人々を幸せに」の経営理念のもと、最先端のテクノロジーを活用し、ライフスタイルを革新するサービスの提供を行うインターネット企業です。現在は AI、IoT、ロボット分野に注力し、法人分野では、企業のワークスタイルを変革するさまざまなサービスを展開しています。

両社は本提携を通じて、RPA 分野の事業展開を共同で行い、さらなる市場拡大を目指します。具体的には、ソフトバンクが自社の営業力と法人顧客基盤を生かして RPA ツールの販売を行うほか、両社で日本型 RPA にふさわしい新しい AI×RPA ソリューションの開発と導入を行っていきます。さらに今後、ソフトバンクが展開する AI やロボット、クラウドサービスなどと RPA ツールを連携させ、企業の業務改革を支援する革新的なサービスを開発・提供していく予定です。

RPA ホールディングスが持つ RPA 事業のノウハウおよび実績と、ソフトバンクの営業力、顧客基盤、開発力、商品力を組み合わせることで、RPA の普及を一層加速させ、企業の働き方改革の推進に貢献していきます。

ソフトバンクについて

ソフトバンクは、インターネット企業グループであるソフトバンクグループで、移動通信サービス、固定通信サービス、インターネット接続サービスを提供しています。グループ企業とのシナジーを発揮し、IT を通じて人々のライフスタイルを革新することを目指して事業を展開するとともに、IoT やロボット、エネルギー等の分野でも事業を拡大しています。詳細はウェブサイトをご参照ください。<https://www.softbank.jp/corp/group/sbm/>

RPA ホールディングスについて

当社は2000年4月、クライアント企業の新規事業に対する投資およびコンサルティングサービスを目的として設立され、2016年1月に純粋持株会社へ移行し、RPA事業を行うRPAテクノロジーズ株式会社をはじめとした事業を担う子会社5社で構成された企業グループです。

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。